

収受番号: 342

評価結果提出届（兼受理書）

（小規模多機能型居宅介護）

健康福祉局介護事業指導課 あて

（太枠内のみ記入してください。）

提出日：平成31年3月18日

届出者	サービス種別 (該当に○)	☒ 小規模多機能型居宅介護	☐ 介護予防小規模多機能型居宅介護	
	事業所番号	1 4 9 1 0 0 0 2 8 5		
	事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 こすめり		
	事業所所在地	(〒245-0063) 横浜市戸塚区 原宿 2-6-7		
	担当者名	大山鳥 芽美		
	連絡先	電話 045 (858) 3322	FAX 045 (858) 3322	

次のとおり、資料を添えて提出します。

運営推進会議開催日		平成31年2月27日	
添付書類 (チェック欄にレ)	チェック欄	☒	事業所自己評価
		☒	サービス評価総括表
		☒	返信用封筒(82円切手を貼った返信先明記の長3封筒)

（以下は記入しないでください。）

評価結果提出届を受理しました。

受理日	平成31年3月19日	実施年度	30年度
次回実施期限	平成32年3月31日		

<次回の外部評価実施後、運営推進介護を開催した日から1か月以内に提出をしてください。>

<この受理書は再発行しません。>

【発行】 横浜市健康福祉局介護事業指導課 電話 045-671-3466 FAX045-681-7789

受付担当者：



事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14 : 00 ～ 15 : 30)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4 名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5 人	12 人	2 人	人	19 人

前回の改善計画	
出勤後すぐ外出する状況であっても新情報が把握できるよう、必要情報を当日のタイムスケジュール板に解りやすく掲示する。また、スムーズな会話で円滑に利用者との関係が築けるよう新人とベテランが協力しチームで支援する。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
一日の流れを、時間順に記載し情報をわかりやすく共有できた。新しい情報は、色を変え工夫し急な変更にもスムーズに対応できた。 また、ベテラン職員が会話のきっかけを作り、さりげなく新人がその輪に入り早い段階で利用者との関係が築けた。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	16	3			19
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	15	2	1	1	19
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	8	9	2		19
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	10	9			19

できている点	
・利用前に本人や家族から聴取りを行い情報を共有し、必要とされる支援に繋げている。 ・初期時は、ゆっくりと会話することに努めた。 ・研修や共有ノートで情報を把握し、各自メモを取り支援にあたった。 ・利用者との関わりが短時間であっても、話題を見つけ意識的に会話するよう努めた。 ・利用者や家族の困りごとに早期に気づけるよう、現場とケアマネが協力し支援に繋げた。	

できていない点	
・勤務浅く(未経験)必要な支援に気づけない。 ・デイサービス初日に緊急対応が入り、色々な職員が対応したこともあり、利用者を不安にさせたことがあった。 ・夜間帯は一人勤務のため、不安を訴えられても即時に対応するには制限があり難しいケースがあった。(利用初日が、ショートステイとなる場合もある)	

次回までの具体的な改善計画		(200 字以内)
初回利用時は、できる限り対応するスタッフを固定する。夜間においても、巡視・コールの対応方法を解りやすく説明し利用者の不安軽減に努める。		

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)
2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名 非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	8 人	9 人	2 人	人	19 人

前回の改善計画	本人と家族の要望が違う場合においても、様々な方向から対応方法を工夫し根気よく支援していく。また、入浴拒否が減らせるよう、本人にあった声掛け方法を探り目標実現に向けた支援を継続する。
前回の改善計画に対する取組み結果	家族が入浴を希望されても本人が拒否するケースに対し、拒否の原因を探り、入浴時間帯・声掛けの仕方を工夫したことで、本人が気持ち良いと思う入浴に繋げる支援ができた。 (食後入浴・髭そりが本人のタイミングであることに気づく)

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	14	4	1		19
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	13	5	1		19
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	12	5	2		19
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	9	8	2		19

できている点	・目標を、モニタリングで評価し状況・状態にあった支援で自己実現を目指したケアができた。 ・新たなニーズに、日々の関わりの中から気づくことができた。 ・研修時に限らず、日常的な業務のなかでも意見・質問ができる環境で取組めた。 ・意思が上手く伝えられない人でも、態度等から汲取り支援している。 ・「在宅で生活したい」という本人の思いと、「一人では心配」という家族のニーズを受止め毎日安否確認で支援し、独居生活であっても安全に暮らせるよう目標にあった支援ができた。 ・目標(自力排泄)を理解し、全介助ではなく一部介助で自立を目指した関わり方ができた。
--------	---

できていない点	・目標がわかっているにもかかわらず、発語が出にくい人の態度から「その時～したいこと」が解らず、興奮したことがあった。 ・経験年数や勤務形態により、目標を十分に把握できず支援にバラツキがでる場合がある。 ・勤務間もないため、目標の把握ができていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	発語が出にくい人であっても、その時の思いや要望を態度や表情から汲取り、その情報を新人からベテランまで共有しながら支援していく。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)

3. 日常生活の支援

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	8 人	10 人	1 人	人	19 人

前回の改善計画	体調不良に自覚がない人であっても早期に気づけるよう、その人にあったケア方法を見直し、バイタル測定回数も柔軟に対応する。
前回の改善計画に対する取組み結果	食事は摂れたか? よく眠れたか? 排便があったか? 等、バイタル測定時に何うことを統一し、体調不調に早い段階で気づけるよう習慣化できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が 10 個以上把握できていますか?	9	7	1	2	19
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	10	9			19
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	7	10	2		19
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	14	4	1		19
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	9	9	1		19

できている点	・本人の能力を損ねないよう、過剰介護せず自立を目指したケアに努めた。 ・リーダーを中心に本人の状態を把握し、急な不調時に緊急ショートで即時に対応できた。 ・共有ノートだけでなく、会話の中から自然な形で以前の暮らしや本人の気持ちを知ることができた。 ・その人の能力を見極め、一人ひとりにあった支援を行っている(食事形態・排泄等)。 ・レクリエーションを工夫し、本人の得意なことが何なのか? 見つけることができた。
--------	---

できていない点	・経験値にばらつきがあり、声にならない声に気づくスタッフが偏る傾向にあり、即時の対応が難しいことがあった。 ・記録が単調的で、具体的な内容の記載が薄く十分な共有に至っていなかった。 (レク参加→促して参加・自ら積極的に参加・嫌々参加なのか不明) ・独居で身寄りがおらず認知症進行もあり、以前の暮らしを知るすべがない場合があった。 ・介護経験が浅く、変化に気づけなかった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	記録を具体的に記載し、気持ちの変化を共有する。
---------------	-------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日	平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)
-----	-------------------------------------

4. 地域での暮らしの支援

メンバー	常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名 非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名
------	---

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	12人	1人	1人	19人

前回の改善計画	家族との関わりが難しいケースであっても、地域資源を活用しながら、できる限り本人が家族と関わる ことができるよう柔軟な対応を継続する。
前回の改善計画に対する取組み結果	近隣美容院の協力で、家族付添いのもと車椅子のまま利用するまでのサポートができた。また、本人が箱 根駅伝や獅子舞等の地域行事に家族と共に携わることができるよう家族への参加を呼び掛けた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係 等を理解していますか?	12	6	1		19
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切 れないように支援していますか?	8	9	2		19
③	事業所が直接接していない時間に、本人が どのように過ごしているか把握しています か?	7	10	1	1	19
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域 の資源等を把握していますか?	9	6	2	2	19

できている点	・一人で外出し道が解らなくなる方に対して、地域資源の「みつけてネット」へ繋いだ。 ・近所との付き合いが徐々に薄れる傾向にあったが、送迎時にスタッフから挨拶したことで、自然と本人も挨拶するようになり会話のきっかけが作れた。 ・今までや現在の生活スタイルを把握し、会話の中から本人のことを深く知るよう努めた。 ・獅子舞や音楽会等のイベントを定期的に開催し、地域住民との交流を図っている。 ・ゴミ出しが困難な独居者に対し、初めから行政サービスを勧めるのではなく、人間関係が途切れないう 隣人の協力が得られるようサポートできた。
--------	--

できていない点	・家族が近くにいても、本人が「家族に迷惑かけたくない」という思いが強く、家族に遠慮してしまうことも あり、事業所への依存が増し家族との関わりが減少していく場合がある。 ・土地感もなく、地域資源を把握しきれていない。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	どのような地域資源があるのか? だれが見ても解るよう表にし、地域情報を共有する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成 30 年 2 月 7・8 日 (14 : 00 ~ 15 : 30)
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4 名 非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	9 人	8 人	2 人	人	19 人

前回の改善計画	悪い変化も良い変化も共に早い段階で気づけるよう、その時・その状態にあった支援で状況を見極め、情報共有を徹底する。
前回の改善計画に対する取組み結果	明らかな不調があった場合を除き、ちょっとした不調に早い段階で気づくスタッフに偏りがみられた。変化があった際の情報は研修や共有ノートで把握することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	10	7	1	1	19
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	14	5			19
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	14	4	1		19
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	12	6	1		19

できている点	・配食サービス、見つけてネット、ふれあいゴミ収集等の地域資源を活用している。 ・通いサービス中に不調があった際、独居環境を考慮し急遽宿泊サービスに切替え対応した。 ・インスリン注射を打ったことを忘れてしまう人に対し毎日訪問に入り、その人にあった支援ができた。 ・送迎の際に、自宅内のガス確認等を行い必要なサービスの提供をしている。 ・毎日内服声掛けのため訪問していたが、徐々に内服可能となりサービスを減らし自立支援に繋がった。 ・夜間帯であっても、緊急要件が入った時には宿直者が即時に対応している。
--------	--

できていない点	・本人と家族のニーズが大きく異なり、提供するサービスが潤滑にいかないケースがあった。 ・共有ノートで情報は把握できているが、経験や知識の差もあり理解に違いがでてしまうことがあった。 ・経験浅く観察力不足もあり、ベテランのように変化にすぐに気付けなかった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	統一した理解のもとサービスが提供できるよう、共有ノートを解りやすく記載する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)

6. 連携・協働

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	14 人	2 人	人	19 人

前回の改善計画	本人の意思を尊重しながら、イベントに参加できる機会を確保し他者との交流を支援する。また、その人の好みにあった活動に参加できるよう地域との連携に努めていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	近隣施設のイベントに参加し、近隣の方々と交流が図れた。また、ボランティアの協力をいただき事業所で民謡コンサートを開催し、本人の昔の趣味に触れる機会が提供できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか?	18	1			19
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	17	2			19
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか?	15	4			19
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	6	13			19

できている点	・地域や小規模事業所が集まる会議に、管理者やケアマネが事業所の代表として参加している。 ・サービス担当者会議に他サービス機関(福祉用具・訪看等)を呼び会議を行っている。 ・小学生や他施設との交流会に参加し、地域住民との関わりがもてた。 ・入院した際、アセスメントを病院へ届けケースワーカーと連携を図り適切な支援へ繋げた。 ・業所で定期的にイベントを開催し、獅子舞では地域の子供等の訪問もあった。 ・町内会の消防訓練に参加できた。
--------	---

できていない点	・トイレが心配、知合いに会いたくない等、理由はひとそれぞれだが、イベントや外出を好まず地域活動への参加が難しい場合もある。 ・「近所の人に車椅子の姿を見られたくない」との理由より、外出やイベントが好きであっても参加を拒むケースがあった。 ・近くにケアプラザがあり問合せは随時あるが、事業所に直接相談に来ることは少ない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	地域の幅を広げ、本人が他者の目を気にせず出かけられるイベントを企画する。
---------------	--------------------------------------

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)

7. 運営

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	9人	8人	2人	人	19人

前回の改善計画	苦情は真摯に受止め、苦情に至った原因とその過程を慎重に検討し、スタッフ全員で解決方法を見出していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	送迎時間の行き違いがあった際、口頭からメモへ変更するも難しく、現場からの提案で“自宅の目に留まる所”に大きな貼紙を取りつけ解決に導けた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	12	5	1	1	19
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	13	4	2		19
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	10	9			19
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	5	13	1		19

できている点	・苦情や相談、現場での意見は、研修に限らずリーダーを中心に声を挙げる取組みが継続できた。 ・地域の方々が防災訓練に参加下さり、避難方法について確認できた。 ・地域の小学生との交流会で、共に理解する機会がもてた。 ・運営推進会議で、地域の方々から意見等をいただき現場の取組みに反映できた(体操や防災関連等)。 ・利用者の立場になって、皆で対応の仕方について話しあえた。
--------	---

できていない点	・送迎時に家族から受けた話を、会話の一つと捉え報告が遅れた。(事業所への話との認識が薄かった)。 ・経験不足もあり、気づきが少なく意見を言えるまでに至っていない。 ・経験値の違いもありベテランからの意見が多く、新人からの意見が少ない傾向になってしまう。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	現場で受けた家族等からの話は、全スタッフが“事業所の代表として話を受けている”と自覚し、その場にあった対応をする。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	14 人	1 人	1 人	19 人

前回の改善計画	危険を事前に察知し事故を未然に防げるよう、新人とベテランが協力し、より多くの小さなヒヤリハットに気づけるよう協力体制で事故防止に努める。
前回の改善計画に対する取組み結果	自立入浴である方が浴槽から出る際に突然膝折れがあった。支えられる位置で見守っていたため転倒には至らなかったが立ち位置を再検討し、経験に違いがあっても安全に無理なく対応できる位置へ変更することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	17	2			19
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	16	3			19
③	地域連絡会に参加していますか	16	3			19
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	10	9			19

できている点	・内部研修を複数日に分け行うことで、全職員の参加が毎月継続できた。 ・研修で全介助移乗、盲目者の食事介助を実際に行い、技術習得に努めた。 ・横浜市小規模連絡会や地域の連絡会には、管理者やケアマネが事業所の代表として参加している。 ・外部研修(感染症・認知症実践者研修等)に参加でき、スキルアップが図れた。 ・リスクを予測したケアができるよう、事例を用いより多くのリスクマネジメントを学んだ。
--------	---

できていない点	・自主性を重んじパート職員が多数を占めていることもあり外部研修への参加はまだ高くない。 ・自身が実際に経験したヒヤリでないと、リスクマネジメントに取り組んでも意識が弱まる傾向がある。 ・勤務浅く職場外研修に参加できなかったが、環境が整ったら参加したい。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	自身が経験したヒヤリでなくとも、危険性を高く保てるよう互いに声かけを行いリスクマネジメントの意識を高める。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 30 年 2 月 7・8 日 (14:00 ~ 15:30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 常勤(大嶋・千葉・古郡・吉田)4名
非常勤(杉江・西野・鳥海・斉藤・森谷・下根・石飛・小澤・野村・山岸・原田・福田・工藤・小山・平塚)15名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	10 人	8 人	1 人	人	19 人

前回の改善計画	書類だけではなく、日常会話の中においても個人情報正しく保護されるよう、日々の業務に関わる個人情報について更に深く学び認識を高める。
前回の改善計画に対する取組み結果	他の利用者の中で個人を特定できるような話題はしない、話題作りに利用者のプライバシーを安易に持ち出さないよう現場での留意点を明らかにし、個人情報に注意しながら業務にあたった。 注意していても、個人を特定できるような話題だったことに後から気づくこともあった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	19				19
②	虐待は行われていない	19				19
③	プライバシーが守られている	11	8			19
④	必要な方に成年後見制度を活用している	16	3			19
⑤	適正な個人情報の管理ができている	7	12			19

できている点	・身体拘束、虐待、個人情報保護について研修を通し正しく理解している。 ・訪問時に、不自然な訪問販売の形跡があり後見人へ繋ぎ危険を未然に防げた。 ・虐待の種類(身体・精神・経済・性・ネグレクト)を把握し、全員が自身の行為に関する点検を行っている。 ・身体拘束をしてはいけない意義を学び、より深く理解できた。 ・排泄誘導は、個人の尊厳とプライバシーが保たれるよう「トイレ」と言わず、さりげなく誘導している。 ・日中に限らず夜間の人眼が無い環境であっても、身体拘束・虐待は行っていない。
--------	---

できていない点	・ホールで利用者に呼ばれた際に、記録書類を無造作に机に置いたままケアにあたり、誰でも見ることが出来る場面があった。 ・個々により個人情報取扱いの注意力にバラツキがある。 ・場所を配慮せず個人を特定できそうな話をしまい、後から気づくこともあった。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	現場で記録を記入していても、その場から離れる際は、記録を適切な場所に片づけ個人情報を慎重に取扱う。
---------------	---

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社 リラ福祉サービス	代表者	代表取締役 馬場 世津
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所 こすずめの里	管理者	大嶋 芽美
法人・事業所の特徴			
住み慣れた地域での生活が継続できるよう、柔軟な対応で一人ひとりの暮らしを支援しています。地域行事への参加や、ボランティアの訪問により音楽会や獅子舞等を定期的に開催し地域住民との交流を図り、本人の暮らしを支援しています。 法人は有限会社リラ福祉サービスの経営で、グループホーム、有料老人ホーム、デイサービス、サードサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援、訪問看護、訪問看護、福祉用具等々、多岐にわたり法人理念に基づいた施設運営を行っています。			

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	3人	人	1人	1人	人	2人	2人	12人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価から見出した課題(改善計画)を、日常的に内容が確認できるよう事務所内に掲示し意識を高める。	日々見て確認できること、計画に対しての意識づけができ、掲示した効果がみられた。	常勤全員が取組んでいるが、非常勤の割合が多いのであれば、非常勤が参加しやすい方法もあると思う。	より多くのスタッフが自己評価に取り組めるよう、取組み期間を長く設ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	年中行事を中心に、季節を感じられるよう掲示物や飾りで室内を工夫し、利用者にとって居心地の良い環境作りに努める。	雛人形・クリスマスツリー・夏は江ノ島の海の貼り絵を掲示した。また、季節の生花を飾り居心地の良い環境作りに努めた。	室内は、季節に合わせた工夫が施され、いつも季節を身近に感じられている。	春夏秋冬に合わせ室内の装飾を工夫し、季節を感じられる空間作りに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	一人で地域行事に参加ができない場合においても、スタッフが一緒に参加することで、地域の方々と交流を支援する。	御神輿や小学生との交流会にスタッフも一緒に参加し、交流を支援した。	イベントは、会議等にて事前に知らせるとより多くの参加が得られると思う。	会議等にて事業所のイベントを事前に周知し、地域との交流を継続する。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	多くの利用者が地域のイベントに参加できるよう、支援体制をより充実させ外出できる機会を確保する。	参加日を数回に分けることで、多くの利用者が無理なく参加できた。	花見等で外出するときには、ボランティアとして協力していききたい。	地域ボランティアの協力を得ながら、イベントや外出レクリエーションをより充実させていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議において、地域の困りごとを様々な方向から検討していく。 情報を共有し、地域と協力しオレオレ詐欺の注意喚起を継続し高齢者を支えていく。	オレオレ詐欺のチラシや情報をいただいたき利用者に解りやすく注目を呼び掛けることができた。また、地域の困りごととも検討でき活発な情報交換ができた。	情報交換の場として今後も情報を発信し、地域でオレオレ詐欺防止に取り組みたい。	運営推進会議を通し、オレオレ詐欺から利用者を守るよう地域で情報を共有し注意喚起に努める。

F. 事業所の 防災・災害対策	災害時に必要な備蓄品を混乱せず持出せるよう、文字だけでなく絵や写真を用い作成する。	誰が見てもわかるように写真を扉に掲示し、非常災害対策にも追加した。	震災時は、事業所に掲げる札がある と助けが必要かどうかわかり、スムーズに避難できると思う。	災害時に一目で助けが必要かどうかわかるよう“札”を作成し、いざという時に備える。
--------------------	---	-----------------------------------	--	--